

雀宮地域学校園食育だより

R7 年度

No.1



雀宮地域学校園食育部会では、行事食や地産地消、そして和食についてみなさんにお伝えするため、食育だよりを発行しています。また、季節の話題になる給食なども紹介していきたいと思います。

ご家庭でご覧になって話題にさせていただき、和食のよさ、行事食などを取り入れていただければ幸いです。



端午の節句は、男の子の健やかな成長と幸せを願う年中行事です。五月人形やこいのぼりを飾り、ちまき、かしわもちなどを食べてお祝いをする風習があります。

かしわもち



かしわもちは、あん入りのもちをカシワの葉でくるんだものです。カシワは、新しい芽が出るまで古い葉が木に残っていることから、家が途絶えずに代々栄えていくようにとの願いが込められています。

カシワがあまり取れない西日本では、「サルトリイバラの葉」を使う「いばらもち」を食べる地域もあります。



ちまき



もち米や団子をササの葉などで包み、ゆでたり蒸したりしたもの。中国から伝わった行事に由来し、地域によって味や形は様々ですが、西日本では主に円すい形の甘いちまきが食べられています。もともとは、チガヤの葉が使われたことから、ちまきと呼ばれます。

端午の節句は、別名で「菖蒲の節句」ともいい、菖蒲を浮かべたお風呂につかり、厄をはらう風習もあります。

菖蒲の葉は、武士が持っていた剣の形に似ていることや、「尚武＝武道などを尊ぶこと」と同音なので、武家でお祝いされるようになり、兜や刀などを飾るようになったといわれています。これらは命を守る大事な道具でもあり、家の家宝なので、元気で病気にならず大きく育ってほしい、という気持ちを込めて飾ります。

